

NIU



# 取扱説明書

M+

Ver.04  
2020年9月発行  
(当製品の取扱説明書の最新版は弊社HPからダウンロードしてご確認ください。)

# 目次

	ページ数
はじめに	1
安全上の注意	2
走行の前に	3
各部名称	4
ダッシュボードディスプレイ情報	6
操作方法	9
バッテリーの使用とメンテナンス	15
運行前点検	20
メンテナンスと修理	22
保管方法	24
定期メンテナンスチェックリスト	25
トラブルシューティングリスト	26
故障コードリスト	27
車体外寸	30
製品仕様	31

この度は、M+をお買い上げいただきありがとうございます。

このマニュアルではM+の正しい取り扱い方法や安全運転のしかたなどについて説明しています。万一、取り扱いを誤ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。運転される前に必ずこのマニュアルをお読みください。

# はじめに

## お願い

- ・操作前に取扱説明書（以降はユーザーマニュアルと表記）の遵守事項を読んでください。このマニュアルの指示に従わなかった場合、傷害、財産損傷の恐れ、または保証が無効になる場合があります。
- ・安全運転および交通ルールを守り、他の人も安全に通行できるように配慮してください。
- ・乗車の際は PSC または SG,JIS マークのある二輪車用ヘルメットを必ず着用してください。
- ・安全のため、乗る前にこのユーザーマニュアルに従って部品の状態を確認してください。問題が発生した場合は、販売店へご相談ください。
- ・道路交通法に従ってください。悪天候時の路面は滑りやすく制動距離が伸びます。安全のために速度を落として走行してください。
- ・水位がホイールアクスルに達した場合は、モーター、バッテリー、その他の部品が錆びたり故障することがあります。
- ・ご自身でスクーターを分解しないでください。部品の交換又は購入については、販売店にお問い合わせください。
- ・他の方の安全のために、免許を持たれていない方やスクーターを操作できない方に車両を貸さないようにしてください。
- ・M+ は 1 人用に設計されています。
- ・M+ はオフロード用に設計されていません。
- ・このユーザーマニュアルは、M+ の恒久的な文書とみなす必要があります。
- ・M+ を他者に譲渡する場合、このユーザーマニュアルもお渡しください。
- ・このユーザーマニュアルを正しくお守りください。

このユーザーマニュアルの複製または転載は固く禁じられています。

このマニュアルを必ず読み、いつでも参照できるよう大切に保管してください。

本ユーザーマニュアルでは、正しい取扱に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

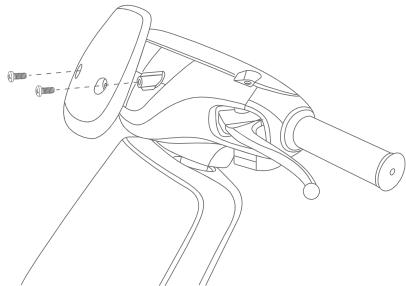
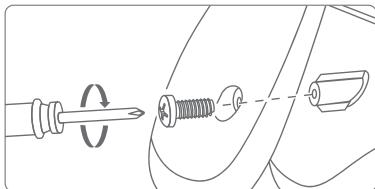
<b>⚠ 警告</b>	この指示に従わなかった場合、死亡、重症、傷害に至るおそれがあります。
<b>⚠ 注意</b>	この指示に従わなかった場合、器械が破損するおそれがあります。

## 安全上の注意

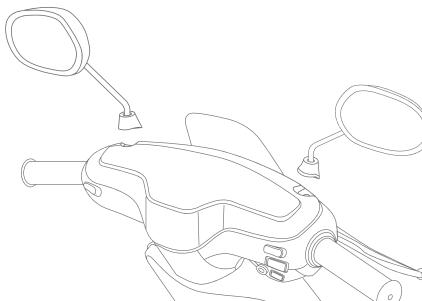
- ・ヘルメット以外にゴーグルやグローブの着用を推奨いたします。
- ・運転操作に慣れるまでは、交通量の少ない安全な場所で練習を行ってください。
- ・M+ を正しくお使いいただくため、「P9~P14 操作方法」に従い操作方法を完全に理解してください。
- ・悪天候時の制動距離は通常より長くなるため、注意して走行してください。コントロールを失い傷害、死亡、財産の損傷につながる危険があります。
- ・曲がる時は必ず減速してください。スピードを出したまま曲がるとコントロールを失い、死亡事故等の原因になる場合があります。傾斜した路面で曲がると転倒の危険が高まります。バイクがコントロールできるようになるまで安全な場所で曲がる練習等を行ってください。
- ・鉄道のレール、トンネル、橋、ペイントマーカー、マンホール等の走行は特に注意が必要です。
- ・ハイビームを常用しないでください。対向車や歩行者の視界の妨げになる場合があります。
- ・走行中に携帯電話やその他の電子機器を使用しないでください。
- ・レーンチェンジを不必要に行わないでください。事故の原因となります。車線を変更する必要がある時は、最初にターンシグナルインジケーターをオンにしてください。常に後ろから接近している車両をチェックしてください。
- ・M+ が異常な騒音や振動を発したら直ちに停止し、電源を切ってバイクの損傷を確認してください。異常な騒音や振動は部品の紛失または摩耗のサインです。
- ・M+ をあらゆる競技やレース等に使用しないでください。傷害や損害をもたらす恐れがあります。
- ・アルコール、薬物、医薬品の影響下にある間は乗車しないでください。お客様自身または周りの方々に危険を及ぼします。また、上記の状態の運転は法律で禁止されています。
- ・M+ の運転前にエアゲージを使用してタイヤのエア圧を確認してください。

# 走行の前に

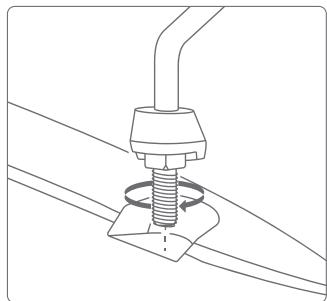
- ①アクセサリーボックスを開け工具を取り出します。
- ②ウインドシールドの穴を合わせて取り付けます。
- ③ネジ 2 本を締め付けてウインドシールドを固定します。



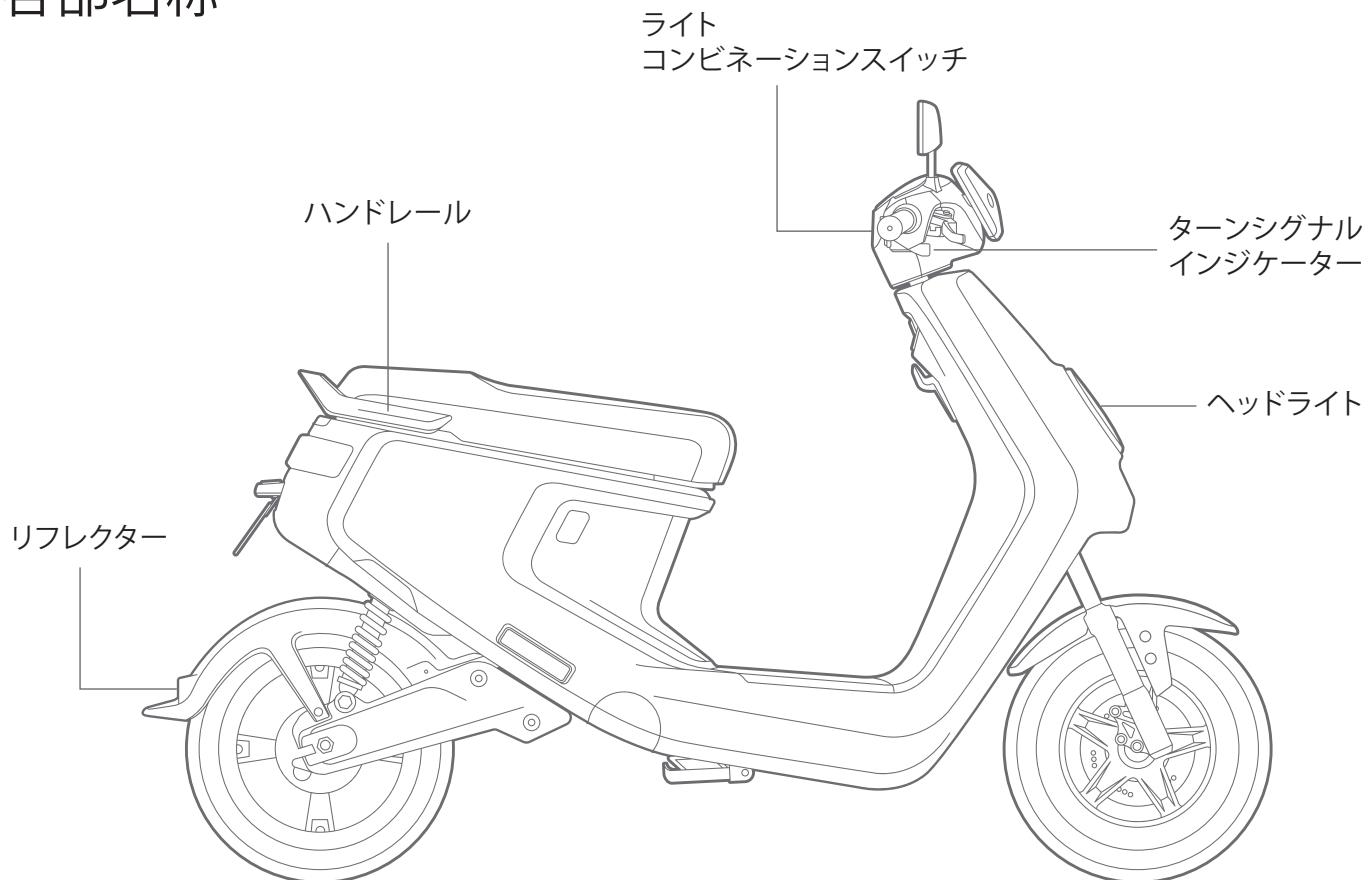
- ④バックミラーをダッシュボードの取り付け穴に取り付け回します (15mm 以上締め込んでください)。



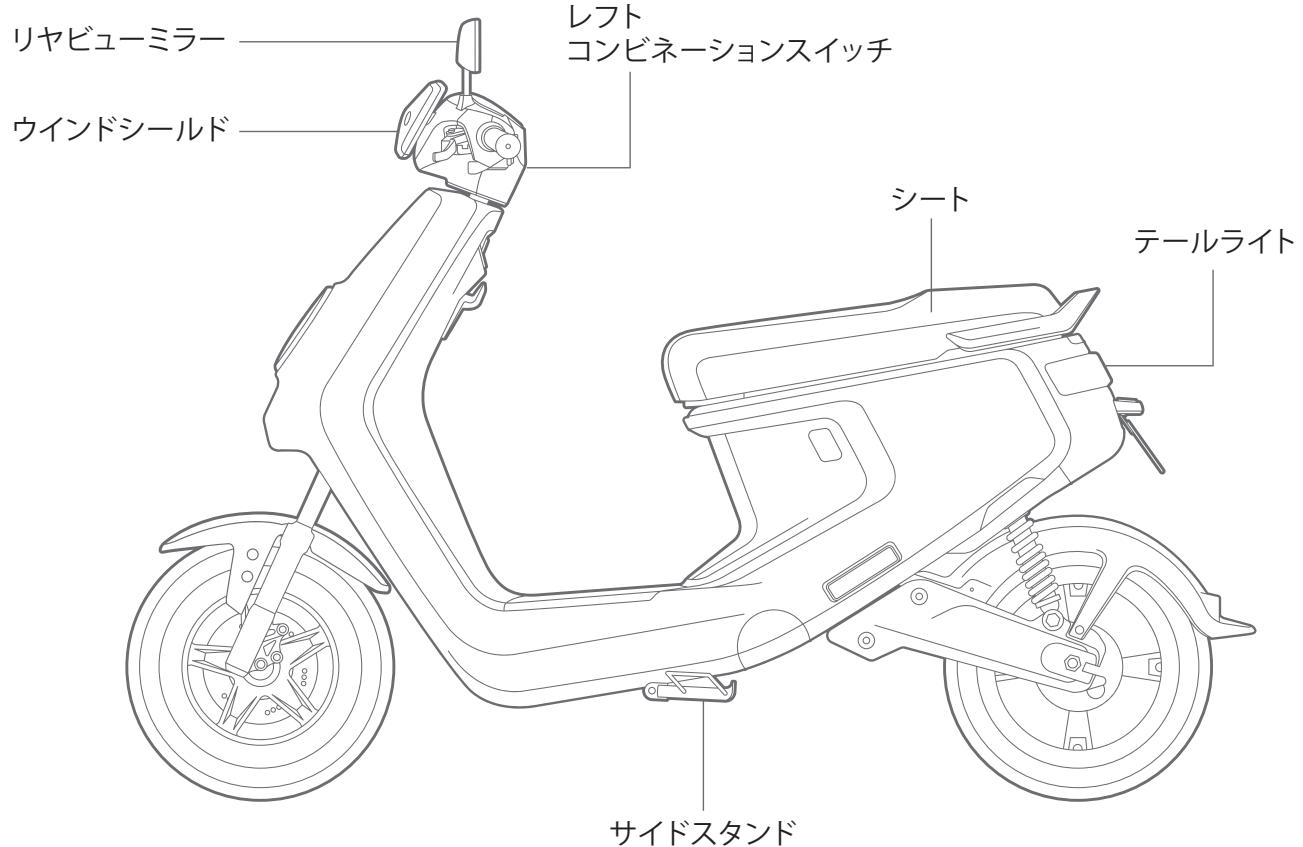
- ⑤バックミラーを適切な位置に調整し、時計回りにナットを締めます。ダストカバーを正しくセットします。



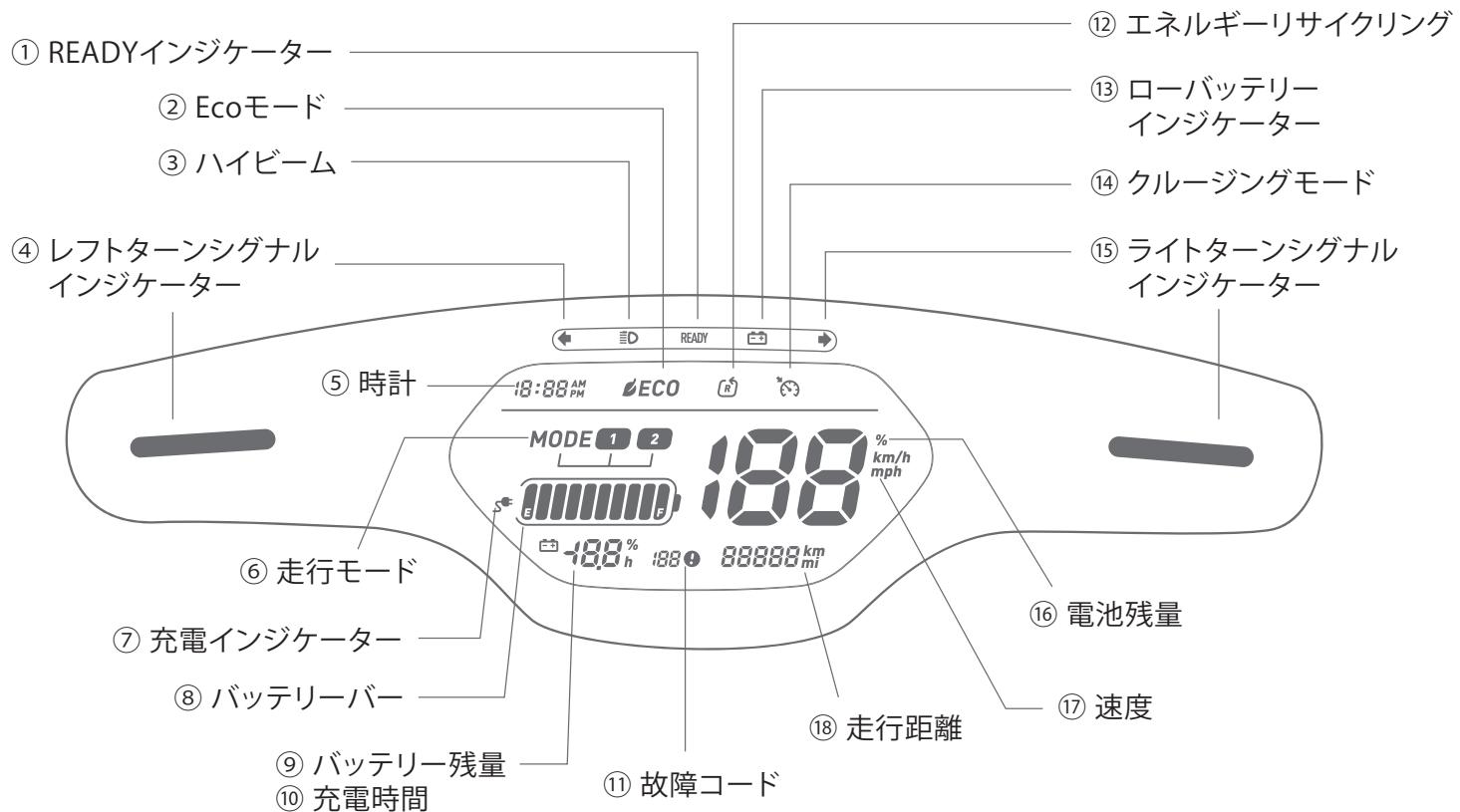
# 各部名称



# 各部名称



# ダッシュボードディスプレイ情報



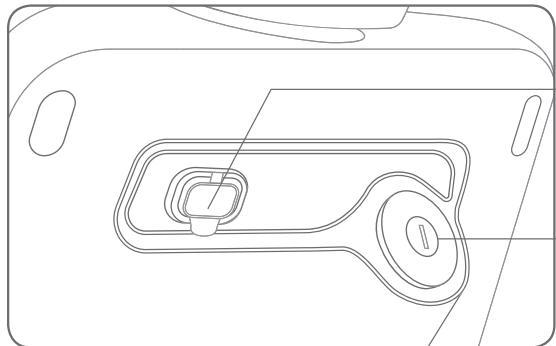
# ダッシュボードディスプレイ情報

番号	アイコン	名称	説明
①	READY	READYインジケーター	走行可能の状態の時に表示する
②	ECO	Ecoモード	バッテリー消費状態が良好時に点灯する
③	HID	ハイビーム	ハイビームが点灯している状態で表示する
④	◀	レフトターンシグナルインジケーター	左の方向指示器が点灯する
⑤	12:00 PM	時計	現在時刻を表示
⑥	MODE 1 2	走行モード	選択した走行モードを表示する
⑦	充满	充電インジケーター	充電されている状態で表示する
⑧	电池图标	バッテリーバー	現在の電池残量を表示する E:電池残量が10%以下 F:電池残量が90%以上
⑨	89%	バッテリー残量(小文字)	電池残量をパーセンテージで表示する

# ダッシュボードディスプレイ情報

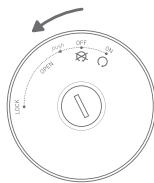
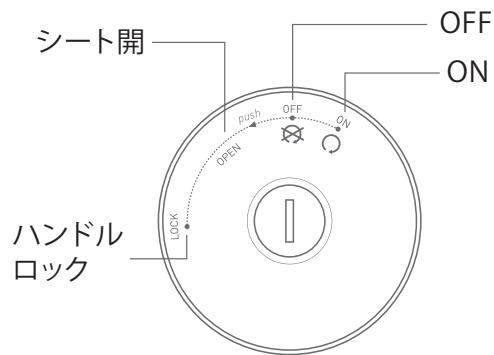
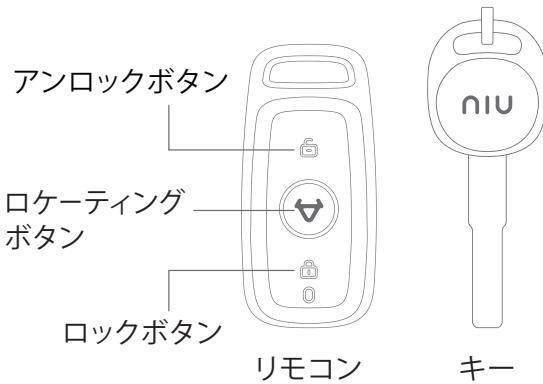
番号	アイコン	名称	説明
⑩	- 32h	充電時間	フル充電までの充電時間を表示する
⑫	(R)	エネルギークリクリング	回生ブレーキで充電中の時に表示する
⑬		ローバッテリーインジケーター	バッテリー残量が20%未満の時に点灯する
⑮	➡	ライトターンシグナルインジケーター	右の方向指示器が点灯する
⑯	13%	電池残量(大文字)	現在の充電割合を表示する
⑰	26 km/h	速度	現在の走行速度を表示する
⑱	00802 km	走行距離	累計走行距離を表示する

# 操作方法（スクーターの始動とロック解除）



USBポート

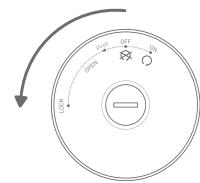
キー ホール



シート開



スクーターを起動



キーを挿入し、押しながら回すとハンドルロック

# 操作方法（スクーターの始動とロック解除）

## スクーターを始動する

- ① リモコンのアンロックボタンを押します。
- ② インジケーターが 2 回点滅し、スクーターのロックが解除されます。
- ③ キーをホールに挿入し、右ハンドル側にあるスタートボタンを 2 秒間押し続けます。
- ④ ダッシュボードの READY が点灯すると、走行可能になります。

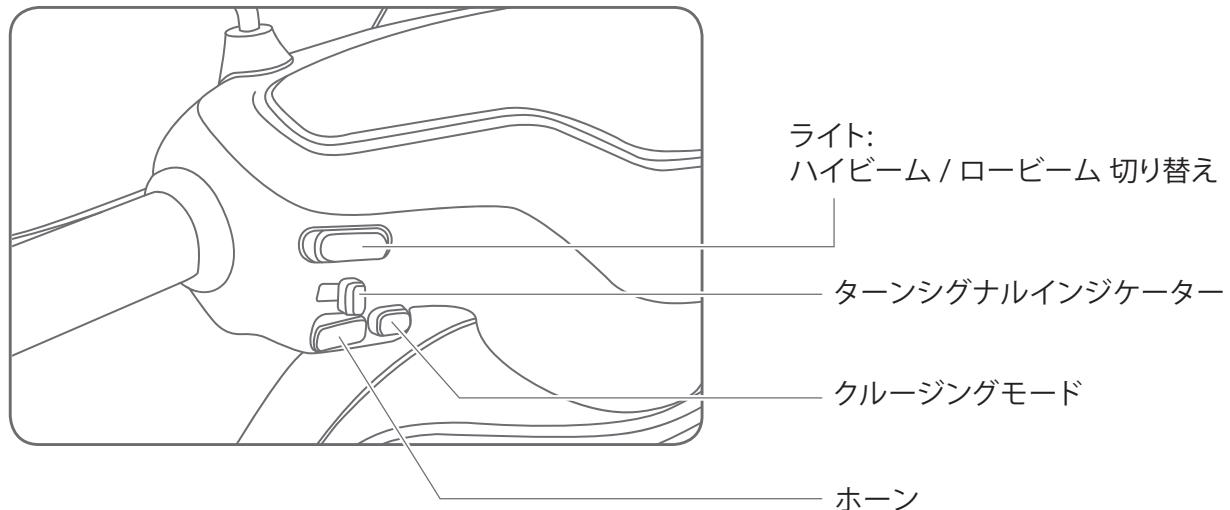
## スクーターをロックする

- ① キーを回して OFF にします。
- ② ハンドルを左に切り、キーを内側に押しながら LOCK と記載されている方に回すとハンドルがロックされます。
- ③ 有効距離内でリモコンのロックボタンを押してアラームを ON にします。
- ④ ターンシグナルインジケーターは、スクーターが適切にロックされた後 2 秒間点灯します。

## ロケーティング

- ① ロケーティングボタンを押すと、ターンシグナルランプが 10 秒間点滅します。
- ② アンロックボタンまたはロックボタンを押すとキャンセルされます。

## 操作方法 (左ハンドル周りのスイッチ)



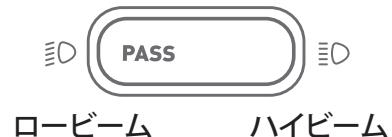
# 操作方法（左ハンドル周りのスイッチ）

---

## ハイビーム / ロービーム切り替え

ボタンを右に押すと、「ハイビーム」がオンになります。

ボタンを左に押すと、「ロービーム」がオンになります。

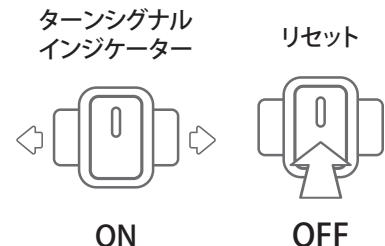


## ターンシグナルインジケーター（方向指示器）

ボタンを左に押すと、レフトターンシグナルインジケーターがオンになります。

ボタンを右に押すと、ライトターンインジケーターがオンになります。

ボタンを押すと、リセットされターンシグナルインジケーターがオフになります。



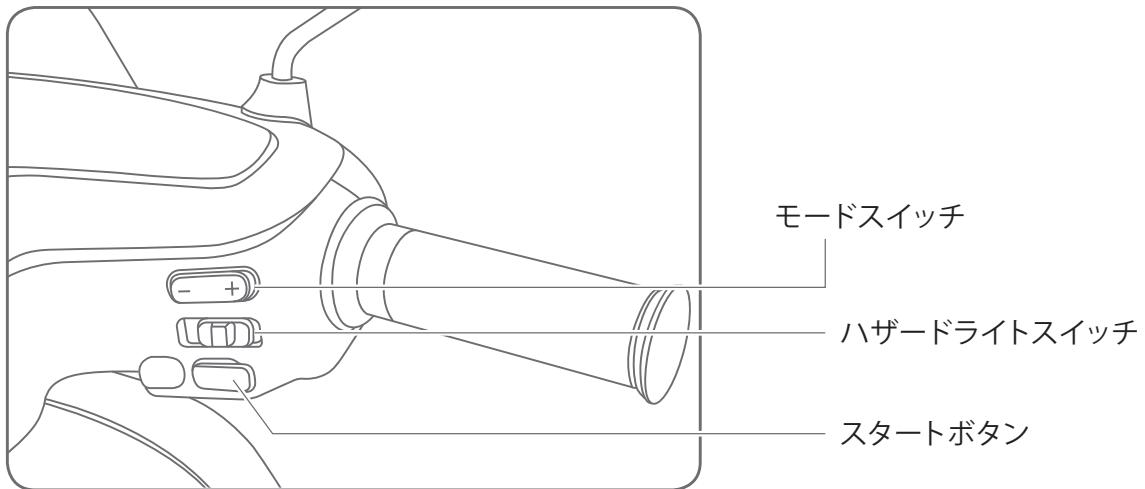
## クルージングモード

現在の速度で走行するには、クルージングモードボタンを押します。

オフにするには、もう一度押すかブレーキをかけます。



## 操作方法 (右ハンドル周りのスイッチ)



# 操作方法 (右ハンドル周りのスイッチ)

---

## モードスイッチ

左を押すと、モード1(エコモード)に切り替わります。

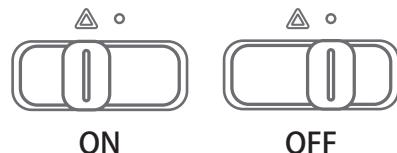
右を押すと、モード2(スポーツモード)に切り替わります。



## ハザードライトスイッチ

左に押すと、ハザードライトがオンになります。

右に押すと、ハザードライトがオフになります。



## スタートボタン

スタートボタンを2秒間押し続けると、スクーターが始動し、ダッシュボードの**READY**が点灯します。

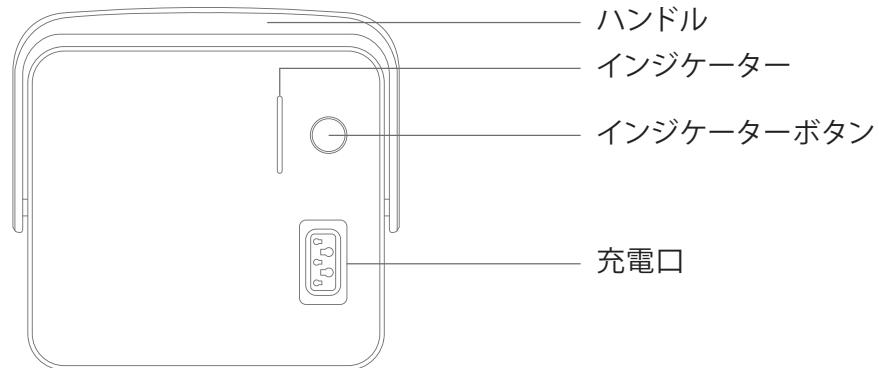
ボタンをもう一度押すとパーキングモードになります。



# バッテリーの使用とメンテナンス

## バッテリーレベルインジケーター

- ・インジケーター ボタンを押すと、インジケーターが点灯してバッテリーのパーセンテージが表示されます。インジケーターには 5 つの LED があり、1 つの LED につきバッテリー残量の 20% を表しています。
- ・バッテリー残量が 20% 未満の場合は、インジケーターが 3 回点滅します。
- ・充電中は、インジケーターが点滅して充電の進行状況を表示します。  
バッテリーが完全に充電されると点滅が停止します。
- ・5 つの LED がすべて点滅している場合は、バッテリーに障害があることを意味します。  
販売店にお問い合わせください。



# バッテリーの使用とメンテナンス

## 使用環境



漏れ、過熱、発煙、発火、爆発の可能性を防ぐため、これらの指示に従ってください。  
電池は -10°C～45°C の温度で使用してください。

- ・水、飲料、腐食性液体には触れないでください。
- ・熱源、火気、可燃性および爆発性のガスおよび液体から離して保管してください。
- ・バッテリーから金属部品を離してください。
- ・バッテリーから異常な臭気、過熱、変形が起こった場合は、直ちにバッテリーの使用を中止してください。
- バッテリーには触れず、直ちに販売店に連絡してください。



バッテリーはユーザーが修理可能な部品ではありません。バッテリーを分解すると、漏れ、発熱、煙、火災、爆発の恐れがあります。バッテリーを開けたり修理しないでください。保証が無効になります。

# バッテリーの使用とメンテナンス

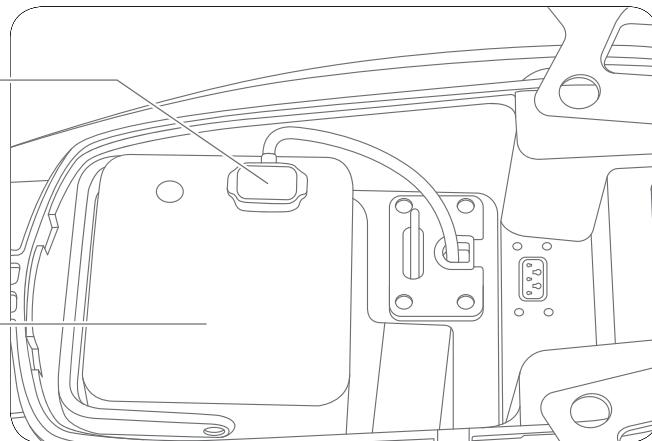
## 充電環境

バッテリーは 0°C～35°C の温度で充電してください。

過充電はバッテリー寿命を短くするため、充電時間は 24 時間を超えないようにしてください。

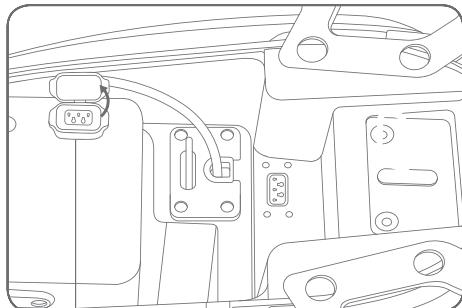
<b>⚠ 警告</b>	バッテリーを 0°C 以下で充電しないでください。
<b>⚠ 警告</b>	純正のバッテリー充電器を使用しないと、漏れ、発熱、煙、火災または爆発の恐れがあります。

バッテリーコネクター / 充電口



# バッテリーの使用とメンテナンス

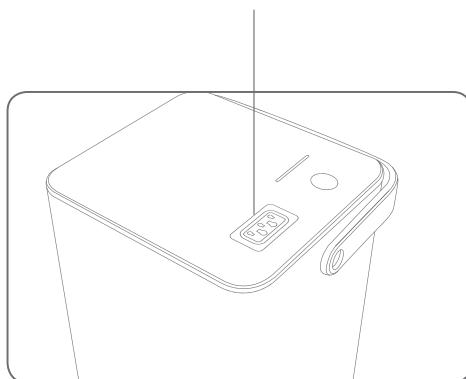
## 充電方法



充電口

### 車載での充電

- ①シートを開きます。
- ②バッテリーコネクタのカバーを開き充電器を充電ソケットに挿し込みます。



### 取り外して充電

- ①スクーターからバッテリーを取り外します。
- ②充電器をバッテリーとソケットに接続します。

## ⚠ 警告

- ・ユーザーマニュアルに従って操作を行ってください。
- ・必ず M+ 純正の充電器で充電を行ってください。
- ・バッテリーの種類と入力電圧に注意してください。また、充電中は充分な換気が必要です。
- ・充電は通気性の良い環境で行う必要があります。閉鎖された空間、極端な低温や高温、また、トランクやテールボックス等では充電しないでください。
- ・充電は充電器を電源に接続してからバッテリーに接続してください。充電後は電源を切った後に、バッテリーを取り外してください。
- ・フル充電後、緑色のライトが点灯した場合は電源を繋いだままにせず、すみやかに電源を切ってください。
- ・充電中に信号灯に異常である場合、異臭がある場合、または充電器が過充電されている場合は直ちに充電を中止して充電器を確認または交換を行ってください。
- ・充電器を使用後保管する場合は、異物、特に水やその他液体を避けショートに注意してください。充電器をスクーターに乗せたまま、振動にさらさないでください。
- ・充電器の部品を自分で分解または交換しないでください。

## ⚠ 注意

- ・12 時間経ってもバッテリーを完全に充電できない場合は、充電を停止して販売店に連絡してください。バッテリーを最大にするにはバッテリー容量を 20% から 80% の範囲に保ってください。
- ・バッテリーの容量損失を防ぐため、40 °C 以下で保管してください。
- ・バッテリーは低温になると容量を失います。- 10°C では 70%、0 °C では 85%、25°C では 100% です。
- ・保管のための最も良い容量は 50% です。10% 以下の長期保管は電池容量を失います。
- ・1 週間以上保管する場合はスクーターから取り出してください。この時、バッテリーの温度を 0°C から 20°C に保ち、容量は 30~70% にします。2 ヶ月に 1 回の充電と放電を繰り返すことで、バッテリー容量の損失を最小限に抑えます。バッテリーの故障が誤操作または適切なメンテナンスの欠如によるもの場合は、保証の適用外となります。
- ・落下をするとバッテリーの内部に制御できない損傷を与えることにより、液漏れ、発煙、発熱、または爆発を引き起こす可能性があります。

# 運行前点検

乗車前に以下の詳細を確認してください。

チェックポイント	説明
ハンドル周り	1. 取り付けが緩んでいないか 2. ハンドル操作が自由に行えるか 3. アクスルシャフトの緩みがないか
ブレーキ	1. ブレーキレバーの遊び(5 mm～9 mm)
タイヤ	1. タイヤの空気圧(25 ~ 34psi) 2. タイヤの溝は適正か 3. 龜裂や開口部がないか
バッテリー	移動に必要なバッテリーの容量は充分か
ライト	以下、全てのライトの確認 ・ハイビーム / ロービーム   ・ブレーキライト   ・方向指示器   ・その他
ホーン	ホーンが機能するか

# 運行前点検

## ブレーキの注意点

- ・ブレーキをかける前に、スクーターが直立になるよう調整してください。
- ・タイヤがロックされ、スクーターが過度の制動力に起因するステアリング能力を失った場合は、ブレーキバーのグリップを緩めると、タイヤが再びグリップし、スクーターが安定します。
- ・滑りやすい路面では前後の制動力の比を1:1程度にします。

### ⚠ 注意

- ・リアブレーキのみを使用しないでください。ブレーキの摩耗を加速する原因になります。

### ⚠ 警告

- ・フロントブレーキのみまたは、リアブレーキのみを使用すると、グリップやコントロールが損失する可能性があるため大変危険です。
- ・湿った滑りやすい道やコーナーの周りを走行する際は、ライダーは大きな危険にさらされるため、注意が必要です。

# メンテナンスと修理

長期間使用されていないスクーターであっても、定期的にスクーターをチェックしメンテナンスすることを推奨いたします。

## 定期メンテナンス

購入後 1 カ月または走行距離 1000km で、スクーターの点検をすることを推奨いたします。

全体的な点検とメンテナンスはその後 6 カ月ごとまたは 3000km ごとに実施する事を推奨いたします。

## 毎日のメンテナンス

チェック中に問題が発生した場合は、本ユーザーマニュアルを確認するか販売店にご相談ください。

## 洗車

スクーターの洗浄には中性洗剤と水を使用してください。

傷防止のため、洗浄後の拭き上げは柔らかい布で行ってください。

## ⚠ 注意

スクーターの過負荷や高速道路または、荒れた路面や上り坂・下り坂で頻繁に使用される場合は、保守サイクルを短くする必要があります。品質を保証し、耐用年数を長くするには、M+ 純正の部品を使用する必要があります。

## ⚠ 警告

- ・修理または調整ができない場合は、安全のために販売店の保守点検を受けるようにしてください。走行する際は、トラブルを避けるため滑らかな路面で走行してください。乗車中にスクーターを修理する必要がある場合は、交通に注意してください。
- ・バッテリーコンパートメントの周りを洗うために高圧洗浄機を使用しないでください。  
特に充電器、コントローラー、およびその他の部品が取り付けられているリアインナーマッドガードを洗浄しないでください。スクーターの充電ポートが濡れている場合は、完全に乾くまで接続や充電をしないでください。

# 保管方法

## 短期保管

- ①スクーターは平面で安定させ、換気の良い乾燥した場所に保管してください。
- ②バッテリーを 50%まで充電してから、保管してください。
- ③劣化を避けるために、直射日光や雨水がかからないようにバイクカバーをかけてください。

## 長期保管

- ①バッテリーの寿命を延ばすために、2ヶ月に1回の充電と放電を行ってください。
- ②長期保管後はバッテリーを 100%フル充電してください。
- ③すべての部品を慎重にチェックし、乗車前に問題がないことを確認してください。  
問題がある場合は、点検または修理のためにスクーターを販売店に持ち込んでください。

### ⚠ 警告

長期保管の場合は、バッテリーをスクーターから取り出してください。

# 定期メンテナンスチェックリスト

定期的な安全性と性能チェック	ブレーキ
	ライト
	ホーン
	電気部品
	タイヤ
構造チェック	潤滑
	ホイールベアリング
	ショックアブソーバー
	サイドスタンド
	ステアリングペアリング
主要部品	バッテリー
	メインワイヤリングハーネス
	コントロールシステム

# トラブルシューティングリスト

故障内容	原因	トラブルシューティング
電源が入らない	1. バッテリーが故障している 2. バッテリーが接続されない 3. 故障コードが表示される	1. バッテリーを充電する 2. 正しく接続されているか確認する 3. 故障コードに従い修理する
キーをONにしてアクセルを回してもモーターが回転しない	1. バッテリーの電圧不足 2. ブレーキレバーを引くと電源が切れる 3. パーキングモードが解除されない	1. バッテリーを充電する 2. アクセルを開けるとき、ブレーキレバーを引っ張らない 3. サイドスタンドを収納し、駐車モードを解除する
バッテリーが充電できない	1. 正しくプラグが接続されていない 2. バッテリーの温度が高すぎるまたは低すぎる	1. プラグが緩んでないか確認する 2. 正常な温度になるまで待つ
速度が出ないまたは距離伸びない	バッテリーの残量が少ない	バッテリーを充電し、プラグが正しく接続されているまたは、充電器が損傷していないか確認する
	タイヤの空気圧不足	タイヤに異常がないか確認する
	頻繁にブレーキをかけている	負荷をかけない良い乗車の習慣を身に付ける
	電池の劣化、容量損失	バッテリーを交換する
	低温による電池容量の低下	バッテリーを充電する
乗車中に突然停止する	バッテリーが故障している	バッテリーを充電する
	メーターパネルの故障コードを参照して、障害原因を特定する	

# 故障コードリスト

故障コード	意味	原因	トラブルシューティング
30	バッテリー過充電	バッテリーオーバーチャージプロテクション	ヘッドライトをオンにして放電させ、充電器が故障していないか確認する
31	バッテリー過電流	バッテリーオーバーカレントプロテクション	バッテリー充電を停止し、充電器が正常かどうかを確認する
32	充電過電流	0°Cで30秒以上または-20°Cで3秒以上	バッテリーの温度が-15°Cを超えるまで、バッテリーを屋内に置く
130	バッテリー過放電	バッテリー残量が低すぎるため、モードBMSが保護を開始しているため	乗車を止め充電する
131	バッテリー過電流	バッテリー不足または過電圧	充電器が正常か確認する
132	バッテリー過電圧	バッテリー温度が高すぎる	バッテリーを冷やすため、乗車を止め日陰に駐車する
133	バッテリー温度低下	バッテリー温度が低すぎる	動作温度範囲に達した後、バッテリーを充電する
10	FOC動作停止	モーターロック	モーターが固着していないか確認する
11		低電圧または過電圧	過電流コントローラ過熱
12		過電流	頻繁に発生する場合は販売店に連絡する
13		コントローラーオーバヒート	バイクを日陰に置き、冷却されるまで待つ

# 故障コードリスト

故障コード	意味	原因	トラブルシューティング
110	FOC故障	MOSFETの故障	販売店に連絡する
		MOSFETドライバの故障	販売店に連絡する
111	FOC検証失敗	オリジナルでないコントローラーまたは通信障害	オートバイを再始動するまたは、FOC認証が失敗した場合は販売店に連絡する
190	FOC通信障害	通信ができない	販売店に連絡する
120	モーター故障	モーターホールセンサーの断線	販売店に連絡する
		モーターコードが接続されていない	
140	スロットルの障害	スロットルホールセンサーの故障	販売店に連絡する
191	バッテリー通信障害	BMSがデータを返すことが出来ないまたは返されたデータが正しくない	コネクタが正しく接続されているか確認する 頻繁に起こる場合は、販売店に連絡する
99	コミュニケーションハーネス障害	スマートセントラルコントローラーまたは、ハーネスの故障	販売店に連絡する
71	ライトコントロール	ジャイロスコープの故障	販売店に連絡する
161	バイクロック	バイクはサーバーによって遠隔ロックされている	販売店に連絡する

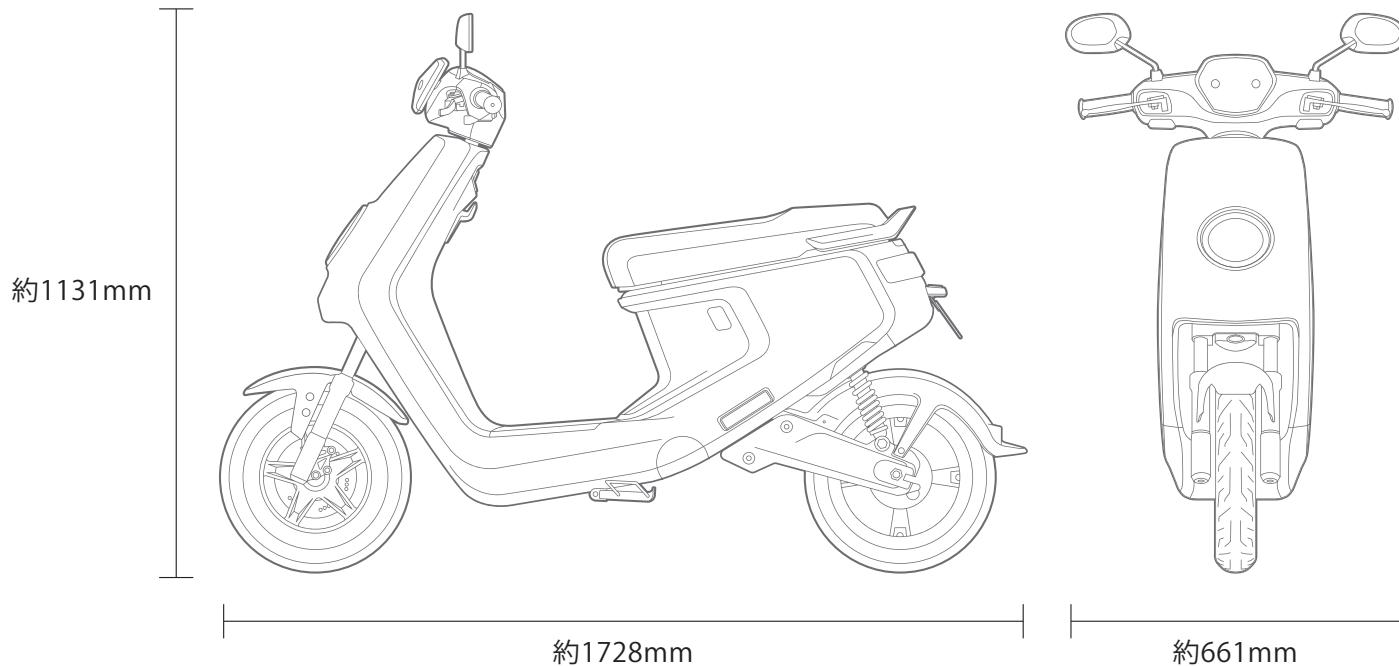
# 故障コードリスト

故障コード	意味	原因	トラブルシューティング
60	通信モジュールの障害	SIMカードの通信に失敗	販売店に連絡し点検する ※日本未対応
67		SIMカードの識別に失敗または弱い信号	
62		GPSの故障	
63		GPSアンテナの短絡	
64		GPSアンテナの開回路	
65		SNコードが書き込まれていないスマートセントラルコントローラーのシリアルコードが書き込まれていない	

# トラブルシューティングリスト

不具合説明	原因	トラブルシューティング
131	過放電	スクーターを停止して再起動する
132	バッテリーの過熱	スクーターを停止してバッテリーの温度を下げる
133	バッテリーの低温度	バッテリーの温度動作範囲に達した後、バッテリーを充電する

# 車体外寸



## 基本仕様

製品重量：72kg(バッテリー含む)

最大登坂角度：15度

定格電圧：48V

最高速度：45km/h

最大負荷：149kg

制動距離： $\leq$ 4.5m(30km/h)

標準充電電流：5A

定格容量：42Ah

最大放電電流：40A

フロントダンパー：オイルダンピングショックアブソーバ

リヤダンパー：オイルダンピングショックアブソーバ

フロントタイヤ：90/90-10 リム：2.15×10

リヤタイヤ：90/90-10 リム：2.15×10

フロントブレーキ：180mm油圧ディスクブレーキ

リヤブレーキ：180mm油圧ディスクブレーキ

最低地上高：126mm

シート高：730mm

モーター：Bosch社製

最大出力：1400W

モーターコントロール：FOCベクターコントロール

FOCコントローラー最大電流：40A

定格出力：800W

セントラルコントロールユニット：12V

USBチャージ：5V / 1A

メーターパネル：12V LCD

ヘッドライト：12V LED

ウインカー：12V LED

テールライト：12V LED

ブレーキライト：12V LED

乗車定員：1名または2名

製造国：中国

# 問い合わせ

バイクについてのお問合せ・ご相談は取扱店にお気軽にご連絡ください。

取扱店

TEL

## ■ 製品について

技術的なお問合せ先：XEAM TECHNICAL CENTER

〒811-2405 福岡県糟屋郡篠栗町篠栗 3754-1

TEL : 092-410-0427 受付時間：9:00~18:00 ( 平日 )  
※12:00~13:00 は除く

## ■ 販売元について

企画開発元：株式会社 MS ソリューションズ

〒812-0038

福岡市博多区祇園町 7 番 20 号 博多祇園センタープレイス 9F

TEL:0120-15-8195 受付時間：11:00~19:30 ( 年中無休 )※年末年始は除く  
FAX:092-262-7419 MAIL:info\_xeam@mssjapan.jp

# 保証書

## 製品保証について

保証書に記載の対象車両の保証部位に、材料上もしくは製造上の不具合等による故障が発生した場合、無償で修復させていただきます。なお、弊社の指示、承諾を得ずに改造等を行った車両については全て保証対象外とさせていただきます。

※一般的な使用用途外(レース場での使用等)についても保証対象外とさせていただきます。

**保証対象部品**… フレーム・フロントフォーク・スイングアーム・ホイール・リヤサスペンション・ブレーキ・ステアリング・電動機・コントローラー・走行用バッテリー・その他メーカーが定めた主要部品。

**保証適用外の範囲**… 外装部品・シート・消耗部品（ブレーキパッド・ブレーキシュー・タイヤ・ゴム類・油脂類等・ブレーキディスク・電球類・ヒューズ等）・その他メーカーが定めた部品

車両の譲渡について詳しくは、WEBページをご覧ください。<https://www.xeam.jp/>

## 1ヶ月点検について

新車登録または届け出をされてから1ヶ月を目安に行う点検です。この時期の点検は車両寿命に影響を与えることが多いことから、新車登録または届け出をされてから約1ヶ月（または1000km時）の点検を弊社提携店舗にて実施いたします。直営店（WEB販売含む）にてご購入いただいた場合は無料でお受付いたします。有効期間を過ぎますと、有料となります。（有効期間：新規登録もしくは届け出をしてから約1ヶ月もしくは有効期間内に走行距離が1000kmを超える場合は、1000km走行時となります。）

### ● 1ヶ月の点検内容

- ・電動機の低速及び加速の状態の点検
- ・リム及びホイールディスクの損傷の点検
- ・ブレーキの利き具合の点検
- ・ブレーキロッド及びケーブル類の緩み、がた、損傷等の点検
- ・タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ・ブレーキホース及びパイプの液漏れ、損傷、取り付け状況の点検

## 定期点検について

2007年4月1日より『道路運送車両法』の改正等により、2007年4月1日以降の新車登録車より、以下の内容での定期点検内容に変更となりました。

- ・6ヶ月点検の廃止
- ・走行距離加味点検とシビアコンディション点検の設定

## 点検の種類について

### ● 日常点検

法律に準じてユーザー様自身で日々の車両の状況、状態に応じてユーザー様自らが適宜行う点検です。走行前、充電前、洗車前等に行ってください。

- ・ブレーキ（前後）レバー（ペダル）の遊び、きき具合
- ・ブレーキ液の量（前）
- ・灯火装置および方向指示器
- ・低速・加速の状態
- ・タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ・運行において異状が認められた箇所

### ● シビアコンディション点検

通常使用により過酷な状況で車両を使用した場合、部品の劣化や破損等が通常より早く進行してしまうケースがございます。それを早期に発見するために整備士が6ヶ月ごとに行う点検のこととします。シビアコンディションの目安、状況については以下の通りです。

- ・坂道や山道の走行が全走行の30%以上を占めている。またそれに伴うブレーキの使用が多い。
- ・走行距離が半年で3000km以上である。
- ・未舗装路や凸凹道の走行が全走行の30%以上を占めている。

※整備点検等でご不明な点は販売店、取次店にご相談ください。

## 保証有効期間について

店舗でご購入 : 登録日から1年間または5,000km走行時

弊社HPでご購入 : 出荷日から1年間または5,000km走行時

通販サイトでご購入 : 出荷日から1年間または5,000km走行時

景品・特典で譲渡 : 弊社卸し日から1年間または5,000km走行時

※年数、kmは早く到達した方を適用

ご購入日

年 月 日

※「景品・特典で譲渡」の場合は、卸し日を記載してください。

氏名 様 TEL - -

〒

住所

車名 登録番号

車台番号

# メンテナンス スケジュール

		1,000km	4,000km または1年	7,000km または2年	10,000km または3年	13,000km または4年
コンポーネント	作業内容					
全般	I	✓	✓	✓	✓	✓
ステアリング、操作系	I / E	✓	✓	✓	✓	✓
ステアリングペアリング	I / C / L				✓	✓
電気系統	I	✓	✓	✓	✓	✓
ライト、スイッチ	I / E	✓	✓	✓	✓	✓
サーキットブレーカー	I	✓	✓	✓	✓	✓
ホイールペアリング	I / E		✓	E	✓	E
ホイール、リム	I	✓	✓	✓	✓	✓
タイヤ	I*				✓	✓
ブレーキ全般	I / C / E	✓	✓	✓	✓	✓
ブレーキオイル	E			✓		
フロントフォーク	I	✓		✓		✓
リヤショックアブソーバー	I	✓		✓		✓
スロットル	I / L		✓	✓	✓	✓
メイン/サイドスタンド	I / C / E		✓	✓	✓	✓

I … Control (点検)    E … 交換    C … 清掃    L … 給油    \*Check : 溝深さ / 空気圧

## 【Controlについて】

機能が正しいか確認してください。清掃や給油の指示があれば追加で行わなければなりません。エラーや欠陥が検出された場合は、修復する必要があります。  
※運行前点検は上記の表に関わらず行う必要があります。

# メンテナンス レコード

日付	年 月 日	走行距離	
ノート			
販売店			

# 1ヶ月点検整備記録簿(電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 参照事項

- ※ 1 各変速モードで作動させ、うなり音等の異音の有無を確認お願いいたします。
- ※ 2 ステム緩み止めナットの状態確認要。
- ※ 3 タイヤ溝深さ→1.6mm 以上
- ※ 4 タイヤ規定空気圧→250kpa

## 電動機点検

■ 本体 \_\_\_\_\_

- 電動機の作動状態・異音の有無<sup>※1</sup>  低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

■ ハンドル \_\_\_\_\_

- 操作具合

■ フロントフォーク \_\_\_\_\_

- 損傷

ステアリングシステムの取付状態<sup>※2</sup>

- ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 電気・保安装置点検

■ 走行用バッテリー \_\_\_\_\_

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ スイッチ類 \_\_\_\_\_

- 灯火装置・方向指示器の作用

ホーン・ハンドルロック装置の作用

- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品／記事等

## ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー \_\_\_\_\_

- 遊び  ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 \_\_\_\_\_

- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ \_\_\_\_\_

- 漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク(フロントブレーキ) \_\_\_\_\_

- ブレーキ液の量

## 足回り点検

■ ホイール \_\_\_\_\_

- タイヤの空気圧<sup>※3</sup>  タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗<sup>※4</sup>

ホイールのボルト・ナットの緩み

■ ショックアブソーバー \_\_\_\_\_

- 損傷・オイル漏れの有無

## その他

- 外観樹脂/パーツの損傷の有無

車両番号			
初度登録年又は初年度検査年			
車台番号			
点検時の総走行距離	km		
点検年月日			
年 月 日			
整備完了日			
年 月 日			
タイヤの溝の深さ			
F mm R mm			
ブレーキパッド残量			
F mm R mm			
点検又は整備を実施した者の氏名			
印			
住所			
〒			

# 定期点検整備記録簿（電動車）

一 輪 車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

- 6カ月点検整備……
  - 12カ月点検整備……  +
- \*納車時点検は6カ月点検に準ずる

## 電動機点検

### ■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無  低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

### ■ ハンドル

- 操作具合

### ■ フロントフォーク

- 損傷  ステアリングシステムの取付状態  
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 足回り点検

### ■ ホイール

- タイヤの空気圧  タイヤの亀裂・損傷の有無  
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗  
 ホイールのボルト・ナットの緩み  
 フロントホイールレバーリングのがた  
 リヤホイールレバーリングのがた

### ■ サスペンションアーム ■ ショックアブソーバー

- 連結部のがた・アームの損傷  損傷・オイル漏れの有無

## その他

- フレームの緩み・損傷  シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

## ブレーキ点検

### ■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び  ブレーキのきき具合

### ■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

### ■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態  ブレーキ液の量

### ■ マスターシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパー

- 機能・磨耗・損傷

### ■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間  
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

## 電気・保安装置点検

### ■ バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

### ■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

### ■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用  
 ホーン・ハンドルロック装置の作用  計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

# 定期点検整備記録簿（電動車）

一 輪 車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

- 6カ月点検整備……
  - 12カ月点検整備……  +
- \*納車時点検は6カ月点検に準ずる

## 電動機点検

### ■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無  低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

### ■ ハンドル

- 操作具合

### ■ フロントフォーク

- 損傷  ステアリングシステムの取付状態  
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 足回り点検

### ■ ホイール

- タイヤの空気圧  タイヤの亀裂・損傷の有無  
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗  
 ホイールのボルト・ナットの緩み  
 フロントホイールレバーリングのがた  
 リヤホイールレバーリングのがた

### ■ サスペンションアーム ■ ショックアブソーバー

- 連結部のがた・アームの損傷  損傷・オイル漏れの有無

## その他

- フレームの緩み・損傷  シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

## ブレーキ点検

### ■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び  ブレーキのきき具合

### ■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

### ■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態  ブレーキ液の量

### ■ マスターシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパー

- 機能・磨耗・損傷

### ■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間  
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

## 電気・保安装置点検

### ■ バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

### ■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

### ■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用  
 ホーン・ハンドルロック装置の作用  計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

# 定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

- 6カ月点検整備……
  - 12カ月点検整備……  +
- \*納車時点検は6カ月点検に準ずる

## 電動機点検

■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無  低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

■ ハンドル

- 操作具合

■ フロントフォーク

- 損傷  ステアリングシステムの取付状態  
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 足回り点検

■ ホイール

- タイヤの空気圧  タイヤの亀裂・損傷の有無  
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗  
 ホイールのボルト・ナットの緩み  
 フロントホイールレバーリングのがた  
 リヤホイールレバーリングのがた

■ サスペンションアーム ■ ショックアブソーバー

- 連結部のがた・アームの損傷  損傷・オイル漏れの有無

## その他

- フレームの緩み・損傷  シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

## ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び  ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態  ブレーキ液の量

■ マスターシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパー

- 機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間  
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

## 電気・保安装置点検

■ バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用  
 ホーン・ハンドルロック装置の作用  計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

# 定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

- 6カ月点検整備 ……
  - 12カ月点検整備 ……  +
- ※納車時点検は6カ月点検に準ずる

## 電動機点検

### ■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無     低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

### ■ ハンドル

- 操作具合

### ■ フロントフォーク

- 損傷     ステアリングシステムの取付状態  
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 足回り点検

### ■ ホイール

- タイヤの空気圧     タイヤの亀裂・損傷の有無  
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗  
 ホイールのボルト・ナットの緩み  
 フロントホイールペアリングのがた  
 リヤホイールペアリングのがた

### ■ サスペンションアーム

- 連結部のがた・アームの損傷     損傷・オイル漏れの有無

## その他

- フレームの緩み・損傷     シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品／記事等

## ブレーキ点検

### ■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び     ブレーキのきき具合

### ■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

### ■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態     ブレーキ液の量

### ■ マスターシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパー

- 機能・磨耗・損傷

### ■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間  
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

## 電気・保安装置点検

### ■ バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

### ■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

### ■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用  
 ホーン・ハンドルロック装置の作用     計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

# 定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

- 6カ月点検整備 ……
- 12カ月点検整備 ……  +

※納車時点検は6カ月点検に準ずる

## 電動機点検

### ■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無       低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

### ■ ハンドル

- 操作具合

### ■ フロントフォーク

- 損傷       ステアリングシステムの取付状態
- ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 足回り点検

### ■ ホイール

- タイヤの空気圧       タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールペアリングのがた
- リヤホイールペアリングのがた

### ■ サスペンションアーム      ■ ショックアブソーバー

- 連結部のがた・アームの損傷       損傷・オイル漏れの有無

## その他

- フレームの緩み・損傷       シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

## ブレーキ点検

### ■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び       ブレーキのきき具合

### ■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

### ■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態       ブレーキ液の量

### ■ マスターシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパー

- 機能・磨耗・損傷

### ■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

## 電気・保安装置点検

### ■ バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

### ■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

### ■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用       計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

# 定期点検整備記録簿（電動車）

該当なし	/	交換	×	締付	T
点検	✓	修理	△	清掃	C
分解	○	調整	A	給油	L

- 6カ月点検整備……
- 12カ月点検整備……  +

※納車時点検は6カ月点検に準ずる

## 電動機点検

### ■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無  低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

### ■ ハンドル

- 操作具合

### ■ フロントフォーク

- 損傷  ステアリングシステムの取付状態
- ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 足回り点検

### ■ ホイール

- タイヤの空気圧  タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
- ホイールのボルト・ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

### ■ サスペンションアーム ■ ショックアブソーバー

- 連結部のがた・アームの損傷  損傷・オイル漏れの有無

## その他

- フレームの緩み・損傷  シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

## ブレーキ点検

### ■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び  ブレーキのきき具合

### ■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

### ■ ホース及びパイプ

### ■ リザーバタンク

- 漏れ・損傷・取付状態  ブレーキ液の量

### ■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパー

- 機能・磨耗・損傷

### ■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分・ライニングの磨耗

## 電気・保安装置点検

### ■ バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

### ■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

### ■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用  計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

# 定期点検整備記録簿（電動車）

一 輪 車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

- 6カ月点検整備……  +
  - 12カ月点検整備……  +
- ※納車時点検は6カ月点検に準ずる

## 電動機点検

### ■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無  低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

### ■ ハンドル

- 操作具合

### ■ フロントフォーク

- 損傷  ステアリングシステムの取付状態  
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 足回り点検

### ■ ホイール

- タイヤの空気圧  タイヤの亀裂・損傷の有無  
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗  
 ホイールのボルト・ナットの緩み  
 フロントホイールペアリングのがた  
 リヤホイールペアリングのがた

### ■ サスペンションアーム ■ ショックアブソーバー

- 連結部のがた・アームの損傷  損傷・オイル漏れの有無

## その他

- フレームの緩み・損傷  シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品／記事等

## ブレーキ点検

### ■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び  ブレーキのきき具合

### ■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

### ■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態  ブレーキ液の量

### ■ マスターシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパー

- 機能・磨耗・損傷

### ■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間  
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

## 電気・保安装置点検

### ■ パッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

### ■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

### ■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用  
 ホーン・ハンドルロック装置の作用  計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

# 定期点検整備記録簿（電動車）

一 輪 車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

- 6カ月点検整備……  +
  - 12カ月点検整備……  +
- ※納車時点検は6カ月点検に準ずる

## 電動機点検

### ■ 本体

- 電動機の作動状態・異音の有無     低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

### ■ ハンドル

- 操作具合

### ■ フロントフォーク

- 損傷     ステアリングシステムの取付状態  
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 足回り点検

### ■ ホイール

- タイヤの空気圧     タイヤの亀裂・損傷の有無  
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗  
 ホイールのボルト・ナットの緩み  
 フロントホイールペアリングのがた  
 リヤホイールペアリングのがた

### ■ サスペンションアーム    ■ ショックアブソーバー

- 連結部のがた・アームの損傷     損傷・オイル漏れの有無

## その他

- フレームの緩み・損傷     シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品／記事等

## ブレーキ点検

### ■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び     ブレーキのきき具合

### ■ ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

### ■ ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態     ブレーキ液の量

### ■ マスターシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパー

- 機能・磨耗・損傷

### ■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間  
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

## 電気・保安装置点検

### ■ パッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

### ■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

### ■ スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用  
 ホーン・ハンドルロック装置の作用     計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

# 定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

- 6カ月点検整備……
- 12カ月点検整備……  +

\*納車時点検は6カ月点検に準ずる

## 電動機点検

### ■本体

- 電動機の作動状態・異音の有無  低速・加速の状態

## ステアリング装置点検

### ■ハンドル

- 操作具合

### ■フロントフォーク

- 損傷  ステアリングシステムの取付状態  
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

## 足回り点検

### ■ホイール

- タイヤの空気圧  タイヤの亀裂・損傷の有無  
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗  
 ホイールのボルト・ナットの緩み  
 フロントホイールベアリングのがた  
 リヤホイールベアリングのがた

### ■サスペンションアーム ■ショックアブソーバー

- 連結部のがた・アームの損傷  損傷・オイル漏れの有無

## その他

- フレームの緩み・損傷  シャシ各部の給油脂状態

■その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

## ブレーキ点検

### ■ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び  ブレーキのきき具合

### ■ロッド及びケーブル類

- 緩み・がた・損傷

### ■ホース及びパイプ

- 漏れ・損傷・取付状態  ブレーキ液の量

### ■マスターシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパー

- 機能・磨耗・損傷

### ■ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間  
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

## 電気・保安装置点検

### ■バッテリー

- 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

### ■電気配線

- 接続部の緩み損傷

### ■スイッチ類

- 灯火装置・方向指示器の作用  
 ホーン・ハンドルロック装置の作用  計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒



X E A M

---

企画販売元：株式会社 MS ソリューションズ  
MAIL : info\_xeam@mssjapan.jp (24 時間受付 )

最新の取扱説明書はこちらをご覧ください。  
<https://www.xeam.jp/niu/mplus/>